

大気環境学会50周年記念公開シンポジウム

「20-30年後の日本・組織・私たちのあり方 —エネルギー・環境問題の視点から—」の概要

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

大気環境学会50周年記念公開シンポジウムが、平成21年9月17日(木)に慶應義塾大学日吉キャンパス協生館・藤原洋記念ホールで開催され、369名が参加し、活発な討論がなされた。

冒頭のあいさつで柳沢幸雄大気環境学会副会長から「20-30年後の日本・組織・私たちのあり方—エネルギー・環境問題の視点から—」をテーマとした趣旨説明があり、その後、北澤宏一科学技術振興機構理事長が「日本のイノベーション政策と環境」と題して基調講演を行った。

この中で北澤氏は21世紀に向けての日本の復活には3つの条件を克服する必要がある、そのための布石がイノベーション政策であり、世界が「地球環境イデオロギー」に入ったと言えるであろう今日、我が国はそのようなイデオロギー時代における国際的な役割を早く自覚し、技術的優位性と国際的リーダーシップを確保することが国益にかなうことであると主張された。

それに続き、4人の演者の方から社会、環境、エネルギー、技術に関して企業や大学の組織の視点からご講演いただいた。

国立環境研究所の西岡秀三氏の「低炭素社会への転換」と題しての講演では、低炭素社会の必要性、低炭素社会の姿、低炭素社会への転換に向けての考え方など説明があった。

(社)日本自動車工業会の柴田芳昭氏からは自動車工業会の大気環境・健康影響研究の取り組み内容について、東京電力(株)の影山嘉宏氏の「電気事業と地球環境問題」と題しての講演では、東京電力の排出削減に向けた取り組みやメガソーラー発電導入など電気事業者側の温暖化対策とヒートポンプの普及促進など需要サイドの対策等について報告があった。

また、慶應義塾大学の清水浩氏の「21世紀型技術—エネルギーの視点から—」と題しての講演では、

太陽電池やリチウム電池、ネオジウム鉄磁石など21世紀型技術により温暖化問題を救う可能性について今開発中の電気自動車Ellicaを例に報告があった。

続いて、大気環境学会副会長内山巖雄氏の「健康の視点から」、大気環境学会会長坂本和彦氏の「地域の視点から」および共催者として全国環境研協議会会長吉村健清氏の「地方自治体の視点から」と題するショートノートの発表があった。

最後に、柳沢副会長の司会で講演者をパネラーとした総合討論が行われた。これらの講演およびショートノートを受けて、討論と質疑応答が活発に行われ、盛会の中に終了した。

プログラム

- | | |
|------|--|
| 趣旨説明 | 大気環境学会副会長 柳沢 幸雄 |
| 基調講演 | 日本のイノベーション政策と環境
科学技術振興機構理事長 北澤 宏一 |
| 講演 | 1. 低炭素社会への転換
国立環境研究所 西岡 秀三 |
| | 2. 大気環境改善に向けて自工会の取り組み
(社)日本自動車工業会 柴田 芳昭 |
| | 3. 電気事業と地球環境問題
東京電力(株) 影山 嘉宏 |
| | 4. 21世紀型技術—エネルギーの視点から
慶應義塾大学 清水 浩 |

ショートノート

- 1 健康の視点から
大気環境学会副会長 内山 巖雄
- 2 地域環境の視点から
大気環境学会会長 坂本 和彦
- 3 地方自治体の視点から
全国環境研協議会会長 吉村 健清